

作品概要

①家屋や塀の強度を確認する

阪神大震災では、亡くなった人の80%以上が、つぶれた建物の下敷きになったというデータがある。家屋や塀の耐震補強は、命を守る上で、最優先事項である。

ここでは、建物やブロック塀の耐震補強の方法について分かりやすく解説する。

②家具の転倒・落下防止

過去の地震では、揺れによる家具類の転倒や物の落下が被害を大きくしてきた。地震から身を守るために、家具類の転倒・落下防止措置は重要だ。大型家電や家具類の固定の仕方を、具体的に説明する。

③出火防止と初期消火

阪神淡路大震災では、地震発生直後から各地で次々と発生した火災で多くの命が失われた。地震による道路の寸断などで消防車が火災現場に近づけず、消火活動がままならなかったからだ。震災時に火事を出さないための日頃の準備と、迅速な初期消火の方法を説明する。

④けがの防止対策

割れた食器やガラスの破片が散乱した部屋は、素足で歩くと大けがをする。そんな時のために、枕元に運動靴を置いておくだけで、いざという時、非常に役立つ。けがを防止するポイントを知り、普段から備えておこう。

⑤津波対策

東日本大震災では、地震の後、10メートルを超える大津波が襲い、死者・行方不明者およそ二万人という甚大な被害を出した。東日本大震災で発生したような巨大津波の場合に、命を守る方法とは？

⑥地域の危険性を把握

東日本大震災では、自治体作成のハザードマップで危険地域と想定した以外の場所にも被害が及び、多くの犠牲者を出した。

生活圏を自分の足で歩き、震災時の避難方法を日頃からしっかり把握しておくことが命を守る。

⑦家族で話し合う

東日本大震災では首都圏でも交通が麻痺したため、多くの帰宅困難者を出し、大混乱となった。電話もつな

がらず、家族の安否を確認できない状況が長時間続いた。電話がつかない時、便利なのがN T T災害用伝言ダイヤル「171」。その使い方を説明する。災害時の集合場所などを、家族で相談しておくことも大切だ。

⑧非常用品を備える

今、日本中、いどこで巨大地震が起こっても不思議ではない。非常用品を家に備えたり、持ち歩くことは重要な事となって来ている。例えば建物が崩れて閉じ込められた時、助けを呼ぶための笛。この笛を持っているかいないかで、あなたの生死が分かれるかも知れないのだ。

非常用持ち出し袋の中身なども、詳しく紹介する。

⑨防災知識を身につける

新聞やテレビ、インターネットなどで、日頃から防災に関する情報を収集することも重要だ。講演会などで、被災者から直接体験を聞くことは、とても参考になる。

⑩防災行動力を高める

災害発生時に、慌てずに対処するためには、普段から訓練しておくことが非常に有効だ。地域の防災訓練には家族全員で参加し、初期消火、応急手当、救出救護など、いざという時に必要な技術を身につけておこう。それが、あなたの命と同時に家族の命を守ることにつながるのだ。

監修 財団法人市民防災研究所
調査研究部長 防災アドバイザー細川 顕司

企画・制作統括	高木 裕己
脚本・演出	川崎 けい子
イラスト	正者 章子
ナレーター	小口 久仁子
製作・著作	株式会社映学社

●価格 (VHS・DVD・22分)

・ライブラリー価格 ¥55,000 (本体価格)

・一般企業価格 ¥25,000 (本体価格)

・2011年・映学社作品